

この箇所を読むと、同時にイザヤ30:21「これが道だ。これに歩め」を連想します。みなさんはいかがですか？自分の進む道を示してくださる方がおられ、このお方と親密な関係にある中で、「これが道だ。これに歩め」と示して下さっていますが、それに従って歩むことができているのでしょうか？多くの人は、さまよい、迷い、そして佇み…どうも自分の進むべき道がよく分からない、もしかしたら自分の置かれている場所さえ分からない、どこに行ったらよいのか分からない、まるで地図のない旅行者のような生活を送られているのではないのでしょうか？今回、リバーサイドチャーチは多くの困難や忙しさを乗り越えて、無事に献堂式を迎えました。多くの場合ここで「ゆったり・ゆっくり」してしまいます。今まで目指して頑張っていたことが完成して、一安心するのは分かりますが、ここで終わりではありません。これは、これからの働きのために主が用意してくれたものなのです。私たちは、願ったものが与えられ、目標が達成したら終わりなのではなく、その後、どのような向きで自分たちが進むべきかを・どう向き直したら良いのかを知っておかなくてはなりません。**その1つ目は「過去から未来へ」です。方向で言えば「後ろから前へ」です。**ローマ8:28には「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」と書かれています。どんな苦境・悪い状況が過去にあっても、私たちの主は、全てのことを合い働かせて益（GOODNESS）としてくださるのです。原語には「主はマイナスにマイナスを掛けてプラスにされる」という意味が含まれています。だからもしも過去にマイナス10ぐらいの悲しみがある人が主を信じれば主はマイナス10を掛け合わせてプラス100の恵みを与えてくださるのです。私たちの過去のマイナスが大きければ大きいほど・深刻な過去を持っていれば持っているほど、神を信じて神の計画に歩んだ人に、神さまは合い働いて益（GOODNESS）としてくださるのです。私たちの人生でもそうです。マイナスと思われる過去がいっぱいあるかも知れませんが、マイナスの過去から脱却して、私たちの内なるものが造りかえられて新しい革袋を着せられて、新しい義の衣を着せられて新しい歩みへと一歩も二歩も踏み出すチャンスが今、私たちに主から与えられています。そして**2つ目の方向は「現在から未来へ」です。問題を見るのではなく、問題を解決する方を見てください(向きは下→上へ)。**世の中には、最後の最後に来たのが教会だった・あらゆる事をやってみたけどダメで最後は神頼みで教会に来た・色々な神々を拝んだけどダメで結局は真の神さまがおられる教会に来た…と言う方々は、多くの問題を抱えています。これは人間では解決できません。しかし私たちの主・全能の神にできないこと・不可能なことは一つもないのです。その神さまを私たちは知っています。そしてその神さまが私たちの理解を超えて働かれます。私たちの主は“問題を見るため”に問題を与えたものではありません。“問題を解決する方を見るため”に問題を“ゆるされた”のです。しっかりと主を見上げましょう。そして、教会の中で「居心地が良い」とゆっくりしてはいけません。教会は多くの滅び行く魂・未信者が集って神さまをあがめるために教会が与えられているのです。神さまは、ここに生きて働かれる方です。集った人々が、訳も分からず神さまに触れられて罪を悔い改め、新しく造りかえられて人生を主に捧げようと決意できるのには見えませんが確実にこの場におられる聖霊さまなる神さまなのです。この方がおられる場所をここに留めてはいけません。この方は私たちの内にもおられます。私たちの人間関係の中にもおられます。そして同時に私たちの内に“内住のキリスト”としていてくださるのです。聖霊なる神さまは私たちを住まいとしてくださっているのです。だから私たちは、この教会に留まっているだけではなく、この方と共に囲いの外に出るのです。(向きは内→外)私たちが外に出て教会に連れてくる時にその人は主に触れられるでしょう。教会の中に入る人数ではなく、教会にまだ入っていない、囲いの外にいる人の数を数えなければいけません。日本では未だに1億2千7百万人中100万に満ちてるかぐらいしかクリスチャンがいません。日本には教会にいない、囲いの外にいる人がたくさんいます。神さまは、百匹の羊のうちその一匹を見失ったとすれば、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回られる方です。1人の魂を大切に、その救いのために全身全霊をかけて福音宣教をおこなうために自分が用いられるように祈りましょう。そして**最後の方向ですが「人から主へ」(横→縦)です。**日本人の多くは人に依存します。クリスチャンなら牧師に依存します。モーセは9節で「私だけではあなたがたの重荷を負うことができない」と言いました。すると神さまは千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長を与えられました(15節)。先生に相談することも必要ですが、まず私たちが自立して自分たちが関わっている人たちの問題をちゃんと背負ってそして霊的に心の中で自立して、私たちの主は生きて働いておられて、私たちが主の御名によって祈れば、その祈りはきかれるのです。この生きて働かれる主がおられることを信じて立ち上がり自立してリーダーシップを発揮しましょう。人に依存するのではなく「ベテスダの池」の話が聖書にはあります(ヨハネ5:1～9)。「ベテスダ」は「神の恵みの家」という意味です。今、私たちは、わざわざベテスダの池まで行かなくても良いのです。なぜなら、ここに・私たちにその力と権威が主によって付与されているからです。ベテスダの池の近くにいる男の問題は“人”に目が向いていることです(7節)。全能なる神さまがいるのに…。神さまは「良くなりたいか？」と言われました。みなさんはどうですか？自分の人生・生涯が良くなりたくないと思いませんか？大丈夫です。全能の神さまが行われるのです。信じてついて行きましょう。そしてこの教会がベテスダの池となり、本当の霊的な復興地となるように、御業が起こるよう祈りましょう。(要約者：行司 佳世)